

人を育て未来を創る

■「人間が想像できる」とは必ず人間が実現する。」

これは「海底二万マイル」「十五年漂流記」などの作品で有名なフランス人小説家ジュール・ベルヌの言葉です。

私は、この言葉をいろいろな式典や会合、市職員への訓示などで、機会を見つけて繰り返し紹介するようになっています。ですので、皆さんの中にも「ああ、それ聞いたことがある」と思い出してくれる人もいるかもしれません。

実は、市長コラムのタイトル「創造を想像する」も、このベルヌの言葉をもじって付けたものです。あえて、「想像を創造する」ではなく、「創り出すことを思い描く」という意味を表したくて、「創造を想像する」という言い回しをしています。

私は、この言葉の裏側に、「想像できないことは実現できない。知識のないところに想像は生まれえない」という意味を深く読み込んでいます。

当然のことながら、私たちは知らないことを想像することはできません。保育園に通う子どもたちに、「将来何になりたい?」と聞くと、テレビの中のヒーローやお菓子屋さんといったように答えます。理由は簡単

です。それしか知らないからです。このことは私たち大人も同じです。想像するためには知識が必要なのです。

■市民の気持ちは…

市長に就任して、私がいちばん最初に職員に求めたのは「自学」です。それは、自ら学ぶことで多くの知識と価値観、多様な判断基準を身につけて欲しいからです。その理由の一つは市民との関係にあります。議員時代の印象から、市民の多くは市職員の発言を間違いのないものと思っ

ています。当時の人々の声を思い返してみても、市民は市職員の言葉を重く受け止めていたように思えます。すべてが正しいとか、間違いをしないなんてことはありえないのです。

■人材を育成するとは

市民にとって、市職員の育成とは、サービスの品質向上そのものであり、信頼の核となるものです。例えば、市の基本理念・基本方針がありますが、それが職員の日常行動の中に備わっていないければ市民には伝わりません。サービスの品質の良し悪しは市民と接したときに決まるわけですが、どの職員と接しても同じような高い品質のサービスが受けられるとき、市民は市に対して信頼を感じ

てくれるはず。そして、その信頼が人材育成で生み出された高品質サービスによって導き出されたものならば、市民の多くは、長期にわたり市への信頼を持ち続けてくれるはず。です。

■10年後、20年後、さらにその先のために

去る4月5日、(財)地域活性化センター理事長 椎川 忍 氏による市職員向けの講演会を開催しました。その中で、同氏は、10年後、20年後を見すえた人材育成が地方創生の成否の鍵であると述べていました。

確かに、10年後、20年後の望ましい地域社会を確保するうえで、今後も市職員が地域経営の中心的役割を担うことになるはず。です。

この度、7年ぶりに「にかほ市人材育成ビジョン」を改定しました。人材育成とは投資です。その効果を数値化することはできませんが、私は経営ポリシーとしてこれを強く進めていくつもりです。あわせて、このポリシーを全ての施策に反映させていきたいとも考えています。



にかほ市長
市川雄次

